

久留米工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	リテラシー実践	
科目基礎情報							
科目番号	3E01			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電気電子工学科			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	教科書：『倫理国語』（筑摩書房）『精選 文学国語』（三省堂）（※後期の授業では、適宜レジュメなどを配布する。 。 参考図書：国語辞典						
担当教員	石塚 政吾						
到達目標							
1. 文章を的確に読み取り、ありありと感受し、自分なりの判断を持つことができる。 2. 他者とのコミュニケーションを図るために、語彙力を身につけ、適切な表現・伝達ができる。 3. 情報を収集・整理する能力を身につけ、その情報をもとに報告・論文を作成することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		文学作品を正確に、豊かに読み味わえる。		文学作品を正確に読解できる。		文学作品を正確に読解できない。	
評価項目2		自分の理解を適切に表現し、伝達できる。		自分の理解を表現し、伝達できる。		自身の理解を表現し、伝達できない。	
評価項目3		情報を収集・整理し、報告・論文を作成できる。		情報を収集し、まとめることができる。		情報を収集し、論文としてまとめることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
4							
教育方法等							
概要	日本語で書かれた文章、特に評論を多く読み、内容の理解、要約文の作成を通して、よりよく思索するための基本的な日本語力を培う。また、相手を意識して、自分の考えを適切に表現・伝達する能力の伸長を目指す。あわせて、言語としての日本語の性格を理解し、ことばによる表現・理解とは何かについての認識を深め、進んで読書する態度を培う。						
授業の進め方・方法	・前期は現代文を中心とした授業を展開する。後期は実用的な文章表現について学ぶとともに、小論文執筆のトレーニングを行う。 ・現代文の授業では、あらかじめ本文をよく読んで授業を受けること。また、内容の理解とともに、原文を声に出して読み、日本語のもつ美しいリズムに慣れ親しんでほしい。						
注意点	【事前学習】 ・現代文の授業では、指定された教科書の本文頁をあらかじめ読んでから授業に臨むこと。その際には必ず辞書を使用し、ことばの意味についても理解を深めておくこと。 【成績評価】 ・満点を100点とし、60点以上の者を合格とする。 ・定期試験（前期中間・期末、後期中間・期末の平均点）60%、そのほか（課題・小テストなど）40%を目安として評価する。 ・出席状況や課題提出状況、受講態度などを考慮し、必要と認めた場合、再試験の実施や課題などの再提出を課す。 【その他】 ・提出を課したもの（小論文やコミュニケーションペーパーなど）は授業やそのほかの報告書などにおいて匿名で取り上げることがあるので、その点を留意しておくこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 授業の進め方についてことばと表現		句読点の打ち方や文章の構造に気を配りながら、情報を正確に他者へ伝えることができる。また、受け手の存在を意識した文章を書くことができる。		
		2週	現代文編 評論「『である』ことと『する』こと」		「である」論理・価値と「する」論理・価値について理解し、日本社会への浸透に対する自分の考えを持つことができる。具体例とその解析を駆使して展開されるダイナミックな思考の躍動をたどることができる。		
		3週	現代文編 評論「『である』ことと『する』こと」		「である」論理・価値と「する」論理・価値について理解し、日本社会への浸透に対する自分の考えを持つことができる。具体例とその解析を駆使して展開されるダイナミックな思考の躍動をたどることができる。		
		4週	現代文編 評論「貨幣共同体」		「貨幣共同体」「循環論法」「非対称性」などのキーワードの理解を踏まえ、貨幣の本質について考えることができる。分析の徹底と提示の典雅さを併せ持つ独特の文体を駆使して展開される論理の流れをたどることができる。		
		5週	現代文編 評論「貨幣共同体」		「貨幣共同体」「循環論法」「非対称性」などのキーワードの理解を踏まえ、貨幣の本質について考えることができる。分析の徹底と提示の典雅さを併せ持つ独特の文体を駆使して展開される論理の流れをたどることができる。		
		6週	現代文編 評論「『病気』の向こう側」		微生物と病気との関係を理解し、人類の微生物に対する思考法や認識のあり方について考えることができる。学問や知識が終わりのない努力の賜物であることの意味を考えることができる。		
		7週	現代文編 評論「『病気』の向こう側」		微生物と病気との関係を理解し、人類の微生物に対する思考法や認識のあり方について考えることができる。学問や知識が終わりのない努力の賜物であることの意味を考えることができる。		
		8週	中間試験		1stQの学習内容が60%以上定着している。		

後期	2ndQ	9週	中間試験範囲の復習	試験で間違えたところを確認し、1stQの学習内容を定着させる。
		10週	現代文編 小説「舞姫」ほか	登場人物や場面設定を整理し、豊太郎とエリスの間に何があったのか理解することができる。
		11週	現代文編 小説「舞姫」ほか	語りの時制や文体・時代背景なども意識して、物語を読み味わうことができる。
		12週	現代文編 小説「舞姫」ほか	語りの時制や文体・時代背景なども意識して、物語を読み味わうことができる。
		13週	現代文編 小説「舞姫」ほか	語りの時制や文体・時代背景なども意識して、物語を読み味わうことができる。
		14週	現代文編 小説「舞姫」ほか	作品を踏まえ、人生で最も大事なものについて考えることができる。
		15週	前期のまとめ（14週目の後に期末試験を実施し、15週目に答案返却・解説をする） 夏休み中の課題について	試験で間違えたところを確認し、前期の学習内容を定着させる。
		16週		
	3rdQ	1週	文章表現編 小論文の執筆に向けて	感想と意見の違いを理解できる。 小論文の基本的な構造を理解できる。
		2週	文章表現編 小論文の執筆①-1	与えられたテーマにかんする情報を適切な手段を用いて収集できる。 自身の考えをもとに、他者とディスカッションすることができる。
		3週	文章表現編 小論文の執筆①-2	自身の意見を論理的な文章にまとめることができる。
		4週	文章表現編 小論文の執筆②-1	与えられたテーマにかんする情報を適切な手段を用いて収集できる。 自身の考えをもとに、他者とディスカッションすることができる。
		5週	文章表現編 小論文の執筆②-2	自身の意見を論理的な文章にまとめることができる。
		6週	文章表現編 小論文の執筆③-1	与えられたテーマにかんする情報を適切な手段を用いて収集できる。 自身の考えをもとに、他者とディスカッションすることができる。
		7週	文章表現編 小論文の執筆③-2	自身の意見を論理的な文章にまとめることができる。
		8週	中間試験	3rdQの学習内容が60%以上定着している。
	4thQ	9週	中間試験範囲の復習	講評を踏まえ、自身の小論文を客観的に振り返る。
		10週	文章表現編 実用的な文章について学ぶ：電子メール①	電子メールの基本構造を理解できる。
		11週	文章表現編 実用的な文章について学ぶ：電子メール②	さまざまなバリエーションの電子メールを作成できる。
		12週	文章表現編 実用的な文章について学ぶ：添え状、封筒	添え状の用途を理解し、さまざまなバリエーションの添え状を作成できる。 郵送にあたって必要な情報を封筒へ適切に記入できる。
		13週	文章表現編 実用的な文章について学ぶ：自己PR①	適切に自己分析ができる。
		14週	文章表現編 実用的な文章について学ぶ：自己PR②	自己分析をもとに、論理的な文章で自己PRを執筆できる。
		15週	後期のまとめ（14週目の後に小論文を各自提出し、15週目に講評を行う）	後期の学習内容が60%以上定着している。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	前3,前6,前8,前9,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	前4,前7,前8,前9,後1,後14
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるすることができる。	3	前10,前11,前12,前13,前14,前15
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前1,前2,前5,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後3,後5,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14

				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前1,前2,前5,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後3,後5,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	前1,前2,前5,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後3,後5,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	前1,前4,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後3,後5,後7,後8,後9,後13,後14,後15
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	前1,前8,前9,後3,後5,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	前4,前7,後2,後4,後6
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前4,前7,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前4,前7,前14,後3,後5,後7,後8,後9,後13,後14,後15
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前4,前7,後2,後4,後6,後13,後14,後15
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前4,前7,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後4,後6,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前4,前7,前10,前11,前12,前13,前14,後2,後4,後6,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前4,前7,前10,前11,前12,前13,前14,後2,後4,後6,後10,後11,後12,後13,後14,後15
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	前3,前5,前6,前8,前9,前10,前15,後1,後2,後4,後6,後14,後15

			他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	前4,前7,前8,前9,前15,後3,後5,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	前4,前7,前10,前11,前12,前13,前14,後2,後4,後6,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	前4,前7,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後4,後6,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	
			合意形成のために会話を成立させることができる。	2	
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
			情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
			情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	2	
			目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	2	
			あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	2	
			複数の情報を整理・構造化できる。	2	
			特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	2	
			課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	2	
			グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	2	
			どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	2	
			適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	2	
			事実をもとに論理や考察を展開できる。	2	
			結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	2	

評価割合			
	試験	そのほか	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	50	40	90
専門的能力	10	0	10